

【技術名】側条施肥

田植時に植付け株の横に局所施肥する側条施肥により、施肥 労力の削減と初期生育の促進、施肥量の削減が可能です！

【技術の要約】

側条施肥機構の付いた田植機を用いて株横2cm、深さ3cmに施肥することにより、田植え作業と同時に基肥施用ができ、初期生育の促進と施肥量の削減が可能です。肥料はペースト状肥料と粒状肥料の2種類があり、それぞれ専用の施肥田植機を使用します。

【技術の内容】

- 1 側条施肥機構の付いた田植機を用いて**株横2cm、深さ3cmに施肥**することにより、田植え作業と同時に基肥施用を行うことができ、施肥作業の省力化が可能になります。
- 2 肥料を根の近くに施肥するため、田植え直後から肥料が吸収され、**初期生育が促進**されます。さらに、**肥料の吸収利用効率が向上**するため、**20%程度の減肥**が可能です。また、田面水の窒素濃度が高まらないため、藻の発生を防いで田面水を暖め、初期生育を促進します。
- 3 肥料は**ペースト状肥料と粒状肥料の2種類**があります。ペースト状肥料は施肥精度、雨天時の作業性等で、粒状肥料は使用可能な肥料の種類が多さ、洗浄等のメンテナンス等で優れています。

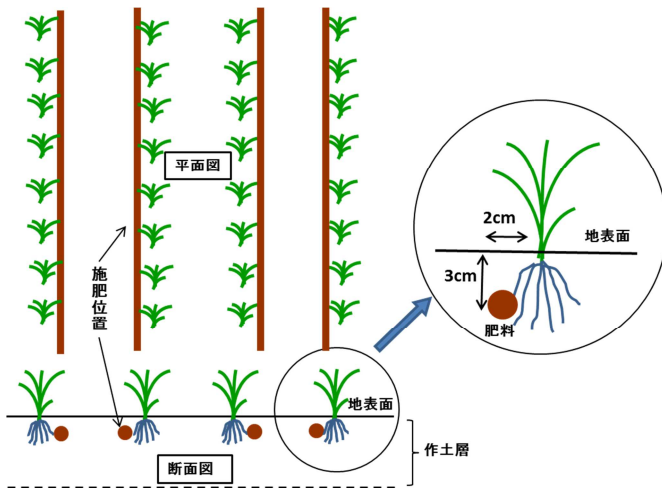


図2 側条施肥の施肥位置



図1 側条施肥田植機(粒状肥料)による施肥

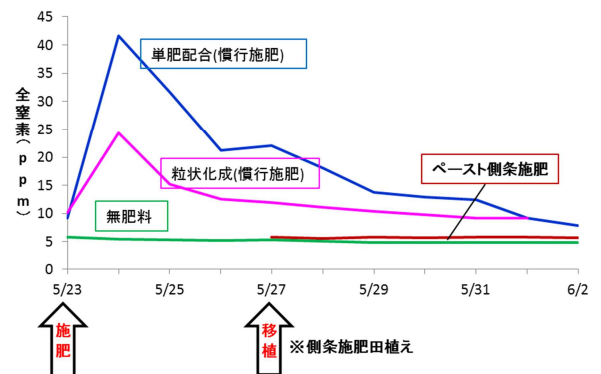


図3 施肥後の田面水の窒素濃度

【留意事項】

- 1 この技術は、昭和53、59年度の普及技術です。技術が開発されてから年数が経過しており、側条施肥田植機は改良されて完成度の高い機種が販売されています。
- 2 側条施肥は初期生育が良好な反面、肥料切れがやや早い傾向がありますので、技術を導入した当初は基肥量や穂肥時期、量等について再確認します。